西都市立妻北小学校　学校通信

妻北っ子だより

令和３年度　５月号　文責　校長

コロナ禍と梅雨入り

保護者の方々と手をつないで登校していた１年生も、上学年に遅れないように歩き、歩道橋を渡りおわると「おはようございます！」とあいさつができるようになってきました。

このまま順調に１学期の教育活動ができればと思っていた矢先、県の緊急事態宣言が発令され、ほぼ同時期に「梅雨入り」宣言もあって、学校にとってはダブルパンチを浴びている状況です。

すでにご案内のとおり、参観日・PTA 総会、春の遠足、非常時想定の児童受渡訓練の実施を見送らざるを得なくなりました。

保護者の皆さんにおかれては、学校の準備計画に合わせて、お仕事のスケジュール等を調整されていたことと思いますが、予定変更・中止についてご了承いただきましたことに感謝申し上げます。

計画変更は、事前準備や打合せを重ねてきた職員にとっても残念な出来事ですが、コロナウィルス感染拡大が収束するまでは予断を許さない状況であり、今後もこのようなことが起こる可能性があることを、お互いに共有しておきたいと思います。

「妻北小学校ホームページ」も、ご覧ください。

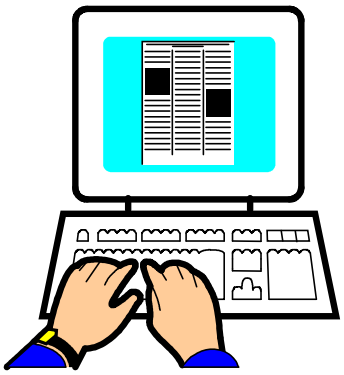
大きな行事は変更されますが、学校内での学習活動は、日々着々と進められています。

「日常的に授業参観できる状況をつくりたい」というのが、校長の秘めたる思いのひとつではあるのですが、このご時世（コロナ禍）を考えると、もうしばらくは秘めたままになりそうです。

私は、日々すべての学年学級の授業の様子を参観することができます。

管理職として「先生方がしっかり指導しているか」という観点から参観する必要もあるのですが、私は「子どもたちはきちんと学んでいるか」に重点をおいて観察するようにしています。

「いい姿勢で、先生を見ている子」
「ニコニコしながら友達と対話する子」
「難しい顔をしながら一生懸命考えている子」
などなど、その一瞬一瞬に見せる態度・表情は、とても興味深いものです。



そんな活動の様子も含めて、本校のホームページで紹介をしています。パソコンだけでなく、スマホやタブレットからでも検索・閲覧ができます。
月ごとの行事確認等もできますので、ぜひご活用ください。

「いいところ、得意なこと、挑戦してみたいこと、将来の夢」

始業式で「いいところをいっぱい見つけよう」と子どもたちにお願いはしたものの、「その言い出しっぺが、何もしていないのでは示しがつかない」と思い、校長室にやってくる子どもたちをターゲットにインタビューをすることにしました。

５月連休明けから始めたので、まだ１０人程度ですが、

「考え中」「いろいろあって選べない」という素直な子もいて、

「そうだよねぇ、突然聞かれても困るよねぇ。また今度教えてね？」

と送り出すこともあります。

聞き取ったら一覧表にメモすることにしています。

４７６人分を作成するには、かなり時間がかかりそうですが、子どもたちと私のコミュニケーションの種として、気長に取り組んでいこうと思っています。

自ら進んで私にアピールする子どもたちも大歓迎ですので、校長室でインタビューを受けるリハーサルとして、ご家庭でも話題にしていただけるとありがたいです。

ようこそ先輩！

５月２４日（月）から、宮崎大学の教育実習生が本校に来ています。

川野　洸哉（かわの　こうや）先生　です。

２０１１（平成２３）年度、本校の卒業生です。

４年１組を担当しながら、教職員の仕事の実際を見聞したり、実際に授業をしたりしてノウハウを学びます。期間は、６月４日（金）までです。

行事

５月

２７日（木）全国学力学習状況調査

６月

１日（火）検尿１次
３日（木）クラブ活動
４日（金）委員会活動・教育実習終了
９日（水）３・４年プール開き
10日（木）２・５年プール開き

６月

11日（金）１・６年プール開き
　　幼保小連絡会
14日（月）教育相談（～１８日）
16日（水）６年インリーダー教室
21日（月）１円玉募金（～25日）
　　JRC登録式（５年）
25日（金）参観日

※上記行事については、感染症拡大防止の観点から、やむを得ず変更・縮小・中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

賛否両論

子どもたちは、将来、自分の力で歩みを進める、自分で判断する、自分で人間関係を築いていく。その過程でつまずいたり、思い悩んだり、考えや方法の違いに気づいて戸惑ったりする可能性があります。

オブラートに包んだ述べ方をしましたが、私たちも、様々な生活体験（悪天候・けが・口論等）を経て成人を迎え、いわゆる「大人」となることができています。「ここまでは『手とり足取り』して、ここからは『見守り』『後ろ姿で示す』」という教育や支援の境目は多様です。失敗の小さいうちに手間をかけ修正することもひとつの考え方です。子どもたちの「自立」は私たち大人が担っています。